

地域	全体景況	個別の動向の具体例(主なコメント) (○:プラス要因 ▲:マイナス要因 □:その他)
北海道	持ち直しの動きが弱まっている	<p>○雇用動向は、低水準ながら改善を続けており、リーマンショック前の水準まで持ち直してきている。</p> <p>○設備投資は、維持・更新が中心であるが、輸送機械等で能力増強投資などもみられる。また、震災後のリスク分散先として道内への工場、データセンター等の立地もみられる。</p> <p>▲個人消費は、スーパー、コンビニ、自動車販売等で持ち直しの動きがみられるが、家電販売は、一昨年エコポイント制度変更や昨年地デジ完全移行に伴う駆け込み需要の反動がみられる。</p> <p>▲観光は、国内客は回復傾向にあるが、海外客は中国客、韓国客等で震災や円高の影響がみられ、戻りが鈍いとの声も聞かれる。</p> <p>□生産は、タイの洪水の影響が輸送機械等でみられるが短期に収束する模様であり、全体としては横ばい傾向。</p>
東北	東日本大震災の影響が残るものの、緩やかな回復が続いている	<p>○設備投資は、震災後の設備復旧に加え、一部で新規・増産投資により、持ち直しの動きがみられる。</p> <p>○雇用は、東日本大震災の影響があるものの、復興需要等により持ち直しの動きがみられる。</p> <p>○個人消費は、大型小売店販売等で復興需要が底堅く、堅調に推移している。</p> <p>○公共投資は、震災復旧・復興関連工事等により増加している。</p> <p>□生産は、主力の電子部品・デバイスで世界的に需要が減少等により減少傾向、輸送機械で震災後の減産分を取り戻す動きが継続、総じてみれば、横ばい傾向にある。</p>
関東	足踏み状態となっている	<p>▲生産は、輸送機械が持ち直し基調、素材産業は弱い動きにあるなど、総じて横ばい傾向にある。円高への対処として、製造業では、海外生産比率および部材の海外調達比率の増加に取り組むとの声が多く聞かれた。タイ洪水の影響による部品調達問題については、一部で生産減への影響がみられ、その後、解消したとの声も多いが引き続き影響を受けているところもある。</p> <p>▲個人消費は、震災以降の家庭回帰傾向によりリビング・キッチン用品が好調なほか、節電関連商品も引き続き好調なものの、地上デジタル放送完全移行に伴う駆け込み需要の反動によりテレビ販売が大幅に減少するなど、一部に弱い動きがみられる。</p> <p>□雇用は、依然として厳しい状況にあるものの、輸送用機械を中心に持ち直しの動きがみられる。</p> <p>□設備投資は、国内では維持・更新が中心。一方で、大企業製造業を中心に海外投資が増加傾向。</p>

地域	全体景況	個別の動向の具体例（主なコメント） （○：プラス要因 ▲：マイナス要因 □：その他）
中部 （東海）	一部に減速感がみられるものの、引き続き緩やかに持ち直している	<p>○主力の自動車関連は、タイの洪水の影響による一時的な減産からほぼ回復し、挽回のための増産体制に入っているとの声が多い。</p> <p>○自動車関連の増産により、期間従業員の求人が出ており有効求人倍率は上昇。各社が奪い合うような状況。また、一部に東北地域への拠点化の動きもみられる。</p> <p>○観光は、回復しつつある。今後も来年秋の伊勢神宮の遷宮にむけた参拝客の増加などに期待。</p> <p>▲薄型テレビは、国内需要が当初の市場予測より2～3割低く、生産は大きく減少。</p> <p>▲金属工作機械は、中国の金融引き締めや欧州の経済危機から海外向けの受注に減速感あり。</p> <p>▲円高は収益を圧迫。海外メーカーとの競争も激化。自動車関連の中小企業では、取引先からのコストダウン要請が強く、海外生産シフトに向けた動きあり。</p> <p>▲タイの洪水の影響により、自動車関連で不足部品を国内からの航空便による輸出での対応や、情報通信機械では国内代替生産が部品調達難から計画数量に満たない例もみられる。</p>
中部 （北陸）	持ち直しの動きが弱まっている	<p>○欧州ブランドメーカーへの繊維輸出は、ユーロ危機により欧州消費が低迷しても、中国富裕層の購買意欲に変化はなく、好調。</p> <p>○設備投資にあたっては、太陽光発電や省エネ機器を活用し、電力消費量の低減を図る動きがみられる。</p> <p>○生産増に伴い期間社員や派遣社員を採用しており、そのうち優秀な者は正社員に登用。</p> <p>▲ユーロ危機により欧州金融機関が融資を控えているため、設備投資が落ち込み、機械受注がキャンセルとなった。</p> <p>▲円高や海外（特にアジア）需要に対応するため、組立工程の海外移管を進めており、電子部品の生産が減少。</p> <p>▲百貨店等では、必要なときに必要なものだけを買う「間際需要」が多く、購買姿勢は依然慎重。</p>
近畿	持ち直しの動きが弱まっている	<p>○工作機械や建設機械、自動車・同関連部品の生産は概ね好調。</p> <p>○新規出店・増床効果の持続や高額品の好調などにより、百貨店は前年を上回っている。旅行取扱高も前年を上回り、台風被害のあった観光地は回復の兆しあり。</p> <p>○タイ洪水では、機械器具等において復旧特需が見込まれている。</p> <p>▲海外経済の減速により、電子部品・デバイスや半導体製造装置、フラットパネル・ディスプレイ製造装置の生産は落ち込んでいる。</p> <p>▲海外拠点への投資が拡大し、国内からのシフトが進展。一方、国内では、設備維持、合理化投資を中心とした慎重な姿勢。</p> <p>▲円高で海外からの資材調達や海外への生産拠点移転の動きが活発化しており、「国内製造業にとって致命的」になると懸念する声も。</p>

地域	全体景況	個別の動向の具体例（主なコメント） （○：プラス要因 ▲：マイナス要因 □：その他）
中国	足踏み状態となっている	<p>▲ タイの洪水被害の影響や国内外における需要の減少から鉄鋼、化学、電子部品・デバイスを中心として減産の動き。</p> <p>▲ 消費は、11月までの気温が高かったことから、秋冬商戦が不振。前年のテレビ買い替え需要の大きな反動があった。</p> <p>□ 一部企業において事業の再編が進められており、雇用への影響がでているほか地域経済への影響拡大を懸念。</p> <p>□ 設備投資は、円高の影響を受けた自動車関連企業の一部に見直しの動きがあるものの、前年比では持ち直しの動きで推移。</p>
四国	持ち直しの動きが弱まっている	<p>○ 乗用車販売は、新型車投入効果などから持ち直してきているほか、エコカー減税延長やエコカー補助金復活が見込まれており、プラス効果が期待されている。</p> <p>▲ 大型小売店では、11月までの気温が高かったことから冬物衣料が苦戦したほか、家電販売は前年のテレビ買い替え需要の反動、タイの洪水による商品不足の影響がみられる。</p> <p>▲ 生産は、海外経済の減速、タイの洪水による影響などから化学、電気機械、電子部品・デバイス等で弱含んでいる。</p> <p>▲ 設備投資は、製造業を中心に持ち直しているものの、計画の先送りや投資を減額する企業がやや増加するなど、一部に弱い動きがみられる。</p> <p>▲ 雇用人員が「適正」とする企業が大半を占めているものの、過剰感のある企業がやや増加しており、持ち直しの動きに足踏み感がみられる。</p>
九州	持ち直しの動きが弱まっている	<p>○ 自動車関連の生産は、タイ洪水被害の影響は概ね限定的であり、新型車効果等もあることから高水準の稼働が続いている。また、半導体製造装置では、海外半導体メーカーの投資意欲の持ち直しから足下では受注回復との声も聞かれる。</p> <p>○ 観光は、九州新幹線全線開業により引き続き南九州を中心に堅調に推移。</p> <p>○ 有効求人倍率は緩やかに増加傾向。輸送機械関連や飲食・宿泊サービス等の求人が堅調。</p> <p>○ 個人消費は、新規開業した大型商業施設が好調。旅行関連も国内、海外ともに持ち直している。</p> <p>▲ 生産は、このところ、一進一退の状況。タイ洪水の影響で部品供給面の支障等から、電子部品・デバイス、自動車等の生産が一時的に減少。半導体関連の生産は、海外経済の減速懸念を背景として受注減、在庫調整の動きがあり、工場の一部閉鎖による生産体制見直しの動きも。</p> <p>▲ 東日本大震災の影響や、タイ洪水被害の影響等から設備投資計画を年度当初より見直す動き。</p> <p>▲ 円高の継続により、企業収益を圧迫しているとの声が強まっている。海外調達拡大、コスト削減に加えて想定為替レートの変更を行うとの声も多く聞かれた。</p>

地域	全体景況	個別の動向の具体例（主なコメント） （○：プラス要因 ▲：マイナス要因 □：その他）
沖縄	緩やかに持ち直している	<p>○観光客数は、国内客、外国客ともに2ヶ月連続で前年同月を上回っている。なかでも国内客では修学旅行や個人旅行が、外国客では中華圏を中心に伸長。</p> <p>○個人消費は、家電量販店でエコポイント制度終了後の販売落ち込みが続き低調であるものの、百貨店・スーパーでは底堅く堅調に推移。</p>